

## 親から受け継いだ昔ながらの技術 が自信に！

村上さんは自身を、昔ながらの大工の技を知る最後の世代だという。

「学校を出て、実家の仕事を手伝うようになって1年半くらいたったとき、妹夫婦の家を親父と建てることになったんです。そのとき“墨付け・刻み”という、昔ながらの工法で建てました」

材木工場で図面通りにカットされた建材が現場に届き、それを組み立てるのが現代の大工。しかし“墨付け・刻み”の場合は、大工が自ら木材を仕入れ、図面通りに加工するところから、家づくりが始まる。